# 全国の国立大学病院で初！病気のこどもに寄り添う“医療チームの一員”
# ホスピタル・ファシリティドッグ®導入決定！

茨城県内唯一の国立大学病院であり、特定機能病院でもある筑波大学附属病院では、がんや重い病気と向き合う子どもたちが日々治療に取り組んでいます。治療や検査に伴う不安や恐怖、痛みは子どもにとって大きなストレスとなることから、筑波大学附属病院では小児医療の質のさらなる向上を目的にホスピタル・ファシリティドッグ®（以下、ファシリティドッグ）の導入を決定しました。

このプロジェクトは、医療チームの一員としてファシリティドッグが子どもに寄り添い、治療環境の心のケアの向上を目指すものです。導入決定にあたり、その役割や医療現場での関わりを広く知っていただくため、ファシリティドッグを実際に迎え、「公開デモンストレーション」を開催します。公開デモンストレーションでは、ファシリティドッグが医療現場で果たす役割や、病気の子どもに寄り添う姿をご紹介し、筑波大学附属病院が目指す小児医療のあり方についてご理解を深めていただくことを目的としています。

**【ファシリティドッグとは】**

がんや重い病気と向き合う子どもたちのそばで、辛い治療や検査に寄り添うことで安心感を与え、医療を支える専門的な訓練を受けた犬です。具体的には、採血や点滴など痛い検査や治療の応援、手術室への付き添い、リハビリテーションへの参加、不安な時の添い寝やお話し相手のほか、ターミナルケア等を行います。＊ターミナルケアとは、余命の限られた方が人生の最期まで自分らしく穏やかに過ごせるよう、心身の苦痛や不安を和らげる医療・看護・介護的なケアです。延命治療ではなくQOL＝クオリティ・オブ・ライフ：生活の質の向上を目指します。

**【プロジェクトの目的】**

筑波大学附属病院では、小児医療の質向上と心理的負担軽減を目的に子どもが安心して医療を受けられる環境づくりを目指しています。重い病気の子どもの治療において、心のケアも　重視される欧米ではファシリティドッグが多くの病院で取り入れられていますが、日本では少数の小児専門の医療機関でしか導入されておらず、国立大学病院では初めての取り組みとなります。
ファシリティドッグの導入は寄附による支援を受けながら段階的に準備を進め、2027 年 4 月より特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズとの協働事業として「ホスピタル・ファシリティドッグ®プログラム」を開始する予定です。 https://sokids.org/ja/
（ファシリティドッグは、導入後 6 年以上にわたる継続的な活動を想定しており、
初期費用に加え、育成・運営等の安定的な活動維持費が必要となります）

**【記者会見・公開デモンストレーションについて】**

**日　時**：1 月 29 日（水）15:00～　筑波大学本部棟８階特別会議室

**内　容**：記者会見にファシリティドッグ候補犬が登場し、公開デモンストレーションを行います
スタッフとともに意気込みをお伝えします

※記者の皆様には、同日午前中に小児科病棟内で行うデモンストレーションの写真・映像データもご提供します（感染対策のため病院広報で撮影します）

# 【参考】医療現場で活動するファシリティドッグ

🐾 本来は犬と遊べない入院中も、ベッドの上でモフモフに癒されます

国立成育医療研究センターで活動するマサ

**🐾 ファシリティドッグの役割 🐾**

- ◆ 採血や点滴など痛い検査や治療の応援
- ◆ 手術室への付き添い
- ◆ リハビリテーションへの参加
- ◆ 不安な時の添い寝や、お話し相手
- ◆ ターミナルケア

🐾 治療を受ける子どもに寄り添い、安心感と前向きな気持ちを届けています

国立成育医療研究センターで活動するマサ

🐾 治療を前に不安そうだった子どもが、犬のぬくもりに触れ、表情を和らげました

🐾 手術室やリニアック（放射線治療）にも付き添って励まします

問い合わせ
筑波大学附属病院
医療支援課　担当：薄井
電話番号 029-853-3800
email:facilitydog.hosp@un.tsukuba.ac.jp